

1997 年度会計中間報告

(1997 年 9 月 10 日現在)

学会基金保管状況			
自由金利定期預金		収 入	10,60,827
(福岡銀行) 21,457,689 円		支 出	6,904,853
定期預金		差 引 残 高	3,703,265円
(福岡銀行) 617,389 円			

1997 年学会基金中間報告

収 入	元金口座	利子口座	合 計
前年度繰越金	21,066,827	1,008,2512	2,075,078円
寄 付 金	0	0	0
利 息	0	91,236	91,236
合 計	21,066,827円	1,099,487	22,166,314円

総会における会長挨拶

本年及び来年度の会長に選出されました三枝豊平です。一つの大きな転機を迎えつつあります日本昆虫学会の、学会長としての重責に耐えうるか、いささか心許ないところではありますが、学会の今後の発展のために最大限の努力を尽くす所存ですので、会員のみなさまの積極的なご協力をお願いいたします。

今回は日本昆虫学会第 57 回大会に全国各地から多数の会員のみなさまが参加下さりまして、誠に有り難うございます。会員外の方々も含めて参加者は 300 人を越えました。この参加者数は、本学会の単独開催の大会としましては、おそらく最大の数であると思います。会員の研究の最新の成果を発表し、討論しあう場としての大会は学会の最も重要な活動の一つでありまして、今回の大会の盛況は、学会の今後の発展を占う意味でも、大変明るいニュースであると受け止めています。

このように申しまして、冒頭で述べましたように、本学会は今一つの大きな転機と申しましょうか節目を迎えています。長年に亘る日本応用動物昆虫学会との合併の計画が、最終段階で挫折してしまいました。この合併の提案は、日本応用動物昆虫学会側から出されたものでありまして、必ずしもこれに積極的ではなかった多くの本学会員が、意識を変革して合併の意義を認め、2/3 を越える賛成のもとに、合併を承認したにも拘わらず、合併を提案した側である日本応用動物昆虫学会の会員投票で否決され、実現しませんでした。合併に向けて、本学会が払った労力、財政支出だけでも多大なものでありました。

生物学、昆虫学の研究が様々な分野で急速に変化・発展しているこの時代に、10 年近くに亘る長い歳月の間、本学会は学会としての変革を、応動昆との合併と新学会における刷新にかけてきたと言っても過言ではないと思います。そして、合併が不調の終わってみれば、本学会は、独自の改革をほとんど何一つなすことができずに、10 年の歳月を